

# 実践記録

88

シリーズ

## ☆災害時における公民館の現状

北魚沼郡川口町公民館長 星 元



川口町公民館 天井ボード落下

### 1 災害時における川口町の状況

・人口	5,639人	・世帯数	1,576世帯
・死者	5人	・重軽傷者	62人
・全半壊	1,084棟	・一部損壊	308棟

#### (1) 震度7の激震

- ・山は崩れ大地は裂けた
- ・全戸に避難勧告
- ・ライフラインもストップ
- ・更に地震被害に追い打ちをかける19年ぶりの大雪に見舞われ、積雪による倒壊等、住民は二重の災害で四苦八苦の状態でした。

#### (2) 公民館関係の被害

- ・町役場 ・生涯学習センター (公民館)
- ・文化会館 ・学校 ・競技場等  
(被災者の避難所、仮設テント、仮設住宅地として使用) 整理して転・活用
- ・40日間避難所

### 2 災害による公民館活動の状況

- ・公民館活動の施設、設備が破壊破損され参加住民のほとんどが被災者であり、避難民の状態です。計画された学習や行事もストップの状態である。
- ・災害苦難な生活の中に希望の光と触れ合いを求めて公民館職員も地区民と協力し「がんばろう・かわぐち」を合言葉に「雪上火ぼたる祭り」等のイベントを開催し地区民に喜ばれた。
- ・雪消えを待ちきれず幾組かの女性のサークル(合唱、舞踊等)が触れ合いを求め活動を開始している。
- ・各地区館も会合を開き活動計画を検討している。
- ・公民館も夏の祭礼の行事、震災復興祈念イベント等の企画を検討し「地震に負けるな」を合言葉に川口の再興を目指し努力する計画である。職員は
- ・物資の使分け、トイレ清掃

- ・給食サービス

- ・国が何をしてくれるかを問うのではなく、私たちとして何かをしようではないか。

- ### 3 災害に際し全国各地からの支援物資、自衛隊、ボランティア等、支援者による援助の有り難さ感謝致したい。

(25,000人以上の支援者)

### 4 活動の経緯

- ・地区館員の70%が全半壊の不自由な生活状態の中で、率先して奉仕支援活動を行っている。「和」を大切にすること、「協力」すること、「我慢」することの大切さを学ぶことができた、と話している。
- ・避難生活で消極的になりがちな住民に、活力と希望を持たせたいと地区の役員と協力し、伝統的な行事「マラソン大会」「子どもみこし」等を企画し、積極的に活動し徐々に活気を取り戻しつつある。

### 5 今後の課題

- ・公民館活動の施設が破損し、行事や学習活動がままならない状態、「いつ」「どこで」「何を」「どうするか」で悩んでいる。
- ・職員も災害復旧、復興の仕事に追われ、公民館本来の活動に復帰するにはまだまだ時間がかかりそうである。「この町はきみが住む町創る町」のスローガンのように、住民のニーズを大切に一步一步仕事を進めていきたい。

